

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第3期丹波篠山市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

兵庫県丹波篠山市

3 地域再生計画の区域

兵庫県丹波篠山市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の人口は1970年から1990年にかけて、ほぼ横ばいで推移し、1991年のバブル崩壊後から2000年にかけては、転入者が多く、人口は微増傾向にあったが、2000年の46,325人（国勢調査結果）をピークに減少しており、現在は39,095人（2024年12月末住民基本台帳）となっている。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、今後も人口は減少し続け、2045年には28,229人になると見込まれており、現在より約30%減少すると推計される。

年齢3区分別の人口動態をみると、年少人口（0～14歳）は1970年の9,454人から一貫して減少し、2020年には4,470人となる一方、老年人口（65歳以上）は1970年の5,576人から2020年にかけて一定の割合で増加し、13,862人となったが、これをピークに減少するものと推計されている。また、生産年齢人口（15～64歳）も1970年の28,398人からをピークに減少傾向にあり、2020年には20,427人となっている。

自然動態をみると、出生数は1977年の508人から、2022年には186人となっている。その一方で、死亡数は2022年には606人と増加の一途をたどっており、出生者数から死亡者数を差し引いた自然増減は▲420人（自然減）となっている。

社会動態をみると、2004年からしばらくの間社会減が続いたが、2022年には転入者1,474人が転出者1,435人を上回り、+39人の社会増となった。しかしながら、依然として自然動態の減少幅の方が大きいことから、総人口の減少傾向は今

後も続くと思込まれる。

人口減少・少子高齢化により、本市の基幹産業である農業の担い手不足や伝統産業の後継者不足、需要の減少による地域産業の衰退、社会保障費や空き家の増加、住民活動の維持困難、さらに生活水準の低下へとつながっていくことが懸念される。

こうした課題に対応するため、移住を促進するとともに、「農」を基盤として「歴史」や「文化」、「自然環境」や「地域のつながり」を大切にしまちづくりを進め、まちづくり協議会や自治会など、市民主体のそれぞれの取組を積み重ね、多様な取組を地域内・地域間で共有することで、創造的な循環を生み出し、地域の実情に即した市民の幸せな生活を実現することにより、人口減少の抑制を図る。これらの達成に向け、次の項目を本計画の基本目標として掲げ、取組を推進する。

- ・基本目標 1 市民が主役で暮らしの質を高めるまちづくり
- ・基本目標 2 すべての人が尊重され、生き生きと暮らせるまちづくり
- ・基本目標 3 地域に根ざした産業とうるおいのあるまちづくり
- ・基本目標 4 良好な景観や伝統文化を大切に継承し、活用するまちづくり
- ・基本目標 5 市民と行政が手をたずさえて取り組むまちづくり
- ・基本目標 6 丹波篠山ブランドを創り、活かすまちづくり

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2030年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	地縁型組織と連携し市民活動助成金を活用するテーマ型組織数	11団体	15団体	基本目標 1
ア	ふるさと納税の寄附件数	23,000件	26,500件	基本目標 1
ア	丹波篠山暮らし案内所を利用した移住件数	80件/年	85件/年	基本目標 1

ア	住宅用火災警報器設置率	81.8%	86%	基本目標 1
ア	市民救命士講習・再講習受講者数	300人	300人	基本目標 1
ア	防災訓練参加者数	1,800人	2,000人	基本目標 1
ア	防災マップ作成数	171自治会	261自治会	基本目標 1
ア	交通事故件数	1,200件	1,000件	基本目標 1
ア	高齢者の運転免許返納者数	170件	250件	基本目標 1
ア	橋梁長寿命化修繕計画に基づく橋梁補修	61箇所	91箇所	基本目標 1
ア	ふるさとの川再生事業による河川の多自然化	13箇所	20箇所	基本目標 1
ア	市営住宅入居率	91.79%	100%	基本目標 1
ア	上水道有収率	87.4%	88.2%	基本目標 1
ア	水洗化率（下水道）	96.1%	97%	基本目標 1
ア	市町村有償運送取り組み地区数	5地区	7地区	基本目標 1
ア	コミバス、乗りタク、有償運送の年間利用者数	のべ8,334人	のべ11,000人	基本目標 1
イ	消防本部救急搬送にかかる市内病院搬送率	53%	60%	基本目標 2
イ	在宅サービス利用率	59.7%	60%	基本目標 2
イ	介護予防に取り組む高齢者の割合	7.3%	15%	基本目標 2
イ	認知症サポーター養成講座受講者数（累計）	13,500人	16,500人	基本目標 2
イ	障害者相談窓口の相談終結割合	70%	75%	基本目標 2
イ	障害者相談窓口の相談件数	180件	190件	基本目標 2
イ	障がい福祉サービス事業所	15人	22人	基本目標 2

	から一般就労への移行者数			
イ	人権研修会等参加者の満足度	27%	50%	基本目標 2
イ	市各種審議会、委員会への女性委員の登用率	40.2%	45%	基本目標 2
イ	特定基本健康診査の受診率	30.2%	40%	基本目標 2
イ	健康教育等参加者数	1,850人	2,150人	基本目標 2
イ	朝食を食べる小学生・中学生の割合	88.7%	100%	基本目標 2
イ	むし歯のない幼児の割合（3歳児）	92%	95%	基本目標 2
イ	ふくし総合相談窓口の相談件数	340件	400件	基本目標 2
イ	ふくし総合相談窓口の相談終結割合	82%	83%	基本目標 2
イ	ジェネリック医薬品の使用状況	81.6%	80%	基本目標 2
イ	子育てふれあいセンター年間利用人数	18,000人	19,000人	基本目標 2
イ	おとわの森子育てママフィード年間利用人数	5,000人	5,000人	基本目標 2
イ	My 助産師利用率	80%	100%	基本目標 2
イ	待機児童の数（年度）	1 人	0 人	基本目標 2
イ	話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う児童生徒の割合	85.1%	88.6%	基本目標 2
イ	児童生徒のICT活用を指導する能力を備えた教員の割合	85.21%	93.2%	基本目標 2

イ	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある児童生徒の割合	81.35%	85%	基本目標 2
イ	丹波篠山市の文化講座を受講して良かったとする受講者の割合	80%	85%	基本目標 2
イ	学校給食で使用する野菜のうち、地元産の使用率	14%	20%	基本目標 2
イ	子どもの居場所づくり推進事業「トライしようDAY」の参加者数（年間）	1,014人	1,200人	基本目標 2
イ	元気で生き生きと地域で活躍が期待される高齢者大学の年間受講生数	700人	1,000人	基本目標 2
イ	親子の絆プログラムの講座を受講することにより安心して子育てができるようになった受講生の割合	100%	100%	基本目標 2
イ	市民の貸出密度（年間）	7.4冊	7.5冊	基本目標 2
イ	丹波篠山ABCマラソン 1 回あたりの市民ランナーの割合	3.8%	4.0%	基本目標 2
イ	丹波篠山総合スポーツセンターの年間利用者数	351,905人	352,500人	基本目標 2
イ	西紀運動公園の年間利用者数	82,414人	82,750人	基本目標 2
イ	トップアスリートとふれあう機会の創出（年）	2 回	2回	基本目標 2
ウ	環境保全活動の実施主体数（年間）	26件	30件	基本目標 3

ウ	森林整備面積（間伐）	152ha/年	325ha/年	基本目標 3
ウ	間伐材の積極利用（搬出材積）	4,030m ³	4,000m ²	基本目標 3
ウ	容器包装プラスチック収集量からの資源化率	45%	60%	基本目標 3
ウ	家庭系可燃ごみの年間処分量	7,583t	6,887t	基本目標 3
ウ	家庭系可燃ごみの年間発生量	6,272t	5,612t	基本目標 3
ウ	家庭系ごみの一人一日あたりの発生量	484g	470g	基本目標 3
ウ	丹波篠山市農業生産組合協議会加入組織数	92組織	92組織	基本目標 3
ウ	認定農業者数	47人	60人	基本目標 3
ウ	特産農産物作付面積（黒大豆、山の芋、小豆）	807ha	800ha	基本目標 3
ウ	多面的機能支払交付金事業に取り組む集落数	201集落	203集落	基本目標 3
ウ	化学肥料・農薬低減技術による水稻栽培面積	22%	面積の50%以上	基本目標 3
ウ	鳥獣保護管理計画に基づく駆除計画に対する達成率	100%	100%	基本目標 3
ウ	宿泊者数	109千人	240千円	基本目標 3
ウ	観光客入込客数	2,175千人	2,300千人	基本目標 3
ウ	観光消費額	21,635百万円	22,474百万円	基本目標 3
ウ	外国人観光客数	29.9千人	40.0千人	基本目標 3
ウ	多言語情報サイトへのアクセス件数	130千件	173千件	基本目標 3

ウ	商工会への新規登録者数	37件/年	45件/年	基本目標 3
ウ	起業支援件数	20件/年	20件/年	基本目標 3
ウ	地元高校からの市内事業所 への就職率	27.8%	30%	基本目標 3
ウ	工場等の新設・増設をした企 業への支援件数	6 件	11件	基本目標 3
エ	修景助成件数（件／年）	5 件	5件	基本目標 4
エ	景観重要建造物の指定件数（ 累計）	11件	13件	基本目標 4
エ	里づくり計画策定地区数（累 計）	10地区	13地区	基本目標 4
エ	歴史文化を活かしたまちづ くりに取り組む団体数	15団体	20団体	基本目標 4
エ	「丹波篠山市展」の作品応募 者数	190人	280人	基本目標 4
エ	ホール（舞台）の利用率	55%	65%	基本目標 4
エ	ボランティアスタッフが舞 台利用日に携わる率	65%	70%	基本目標 4
オ	市民の皆さん等からの意見・ 提案受付数	384件	800件	基本目標 5
オ	報道関係記者発表件数	330件	700件	基本目標 5
オ	財政調整基金残高/標準財政 規模	13.3%	15%	基本目標 5
オ	経常収支比率	95.6%	90%台前半	基本目標 5
オ	市職員研修受講意義（「非常 に有意義」と回答した参加者 の割合）	59.09%	70%	基本目標 5
オ	市職員研修受講理解度80% 以上の参加者の割合	68.18%	80%	基本目標 5

カ	観光情報サイトへのアクセス件数	2,174千件	2,200千件	基本目標 6
カ	歴史 4 館への入館者数	111千人	130千人	基本目標 6
カ	アーティストグループのネットワーク化	36人	40人	基本目標 6
カ	まちの魅力度	333位	200位	基本目標 6
カ	観光客入込客数	2,175千人	2,300千人	基本目標 6
カ	イノベーターズスクール受講者数	271人	450人	基本目標 6
カ	丹波篠山暮らし案内所を利用した移住件数	80件/年	85件/年	基本目標 6
カ	まちの認知度	463位	300位	基本目標 6
カ	テレビ・ラジオなどメディアで報道された件数	80件	100件	基本目標 6

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第3期丹波篠山市まち・ひと・しごと創生推進事業

ア 市民が主役で暮らしの質を高めるまちづくり事業

イ すべての人が尊重され、生き生きと暮らせるまちづくり事業

ウ 地域に根ざした産業とうるおいのあるまちづくり事業

エ 良好な景観や伝統文化を大切に継承し、活用するまちづくり事業

オ 市民と行政が手をたずさえて取り組むまちづくり事業

カ 丹波篠山ブランドを創り、活かすまちづくり事業

② 事業の内容

ア 市民が主役で暮らしの質を高めるまちづくり事業

地域のあらゆる住民が自分の役割を担い、地域での課題を他人事ではなく自分事として考え、誰もが互いに支え合いながら、自分らしく活躍できる地域を目指すため、市民の活動を支援し、みんなの活躍によって地域がつくられていく仕組みを整えるとともに、防災意識や防犯意識の向上、交通安全など地域ぐるみの取り組みを支援する。

生活に密着した安全安心な道路ネットワークの整備や、環境に配慮した河川整備を進めるとともに、計画的な維持管理により道路や河川施設の長寿命化を図る。

【具体的な事業】

- ・神戸大学等との地域連携推進事業
- ・移住相談窓口の運営・移住支援事業
- ・ふるさとの川再生事業 等

イ すべての人が尊重され、生き生きと暮らせるまちづくり事業

住民それぞれが支え合い、安心して生き生きと暮らせるまちづくりを行う。

ライフステージに合わせた健康づくりを、様々な関係機関と相互に連携し、社会全体で健康づくりに取り組むとともに、子育て世代が安心して子育てできるよう、ふるさとの豊かな環境の中で、地域全体で「子育てち」の文化を育てる。

【具体的な事業】

- ・子育て世代包括支援事業
- ・チルドレンズミュージアムの運営支援事業 等

ウ 地域に根差した産業とうるおいのあるまちづくり事業

城下町・歴史的な町並みなどの景観やデカンショ祭をはじめとするイベントなど多くの観光資源があり、四季を通じて多くの観光客が訪れるまちとして、おもてなしの環境を整え、さらなる交流人口の増加と滞在時間の延長を図る。

また、市内には優れた事業所がたくさんあり、企業誘致とあわせて市内企業の支援、地元企業への就職などを通じて商工業の振興を図る。

【具体的な事業】

- ・丹波篠山三大祭（デカンショ祭・味まつり・陶器まつり）の開催事業
- ・企業紹介ガイドブック作成事業 等

エ 良好な景観や伝統文化を大切に継承し、活用するまちづくり事業

丹波篠山市は、緑豊かな田園風景が継承され、今もなお日本の農村の原風景に包まれている。他都市では失われてきたところも多く、貴重な景観を将来につなげていく。

篠山城跡と城下町を中心とした歴史的な町並み、京文化の影響を色濃く受けた様々な形態をもつ祭礼などの伝統文化を含む重層的な歴史や文化を守り伝えてきた。さらに、多くの有形、無形の文化財を積極的に保存、活用を図る。

【具体的な事業】

- ・景観形成活動等への支援事業
- ・歴史文化を活かしたまちづくり推進事業 等

オ 市民と行政が手をたずさえて取り組むまちづくり事業

市民がまちづくりに関する情報を共有できるよう、市は市民に対し保有する情報を積極的に公開し、分かりやすく提供する。人々の価値観が大きく変化し、市民のニーズは多様化しているが、限られた資源を効率的に活用し、最小の経費で最大の効果を生み出す。

【具体的な事業】

- ・地域サポート職員制度による地域活動への参画事業
- ・市有財産の適正管理と有効活用事業 等

カ 丹波篠山ブランドを創り、活かすまちづくり事業

丹波篠山黒豆や重要伝統的建造物群保存地区などの地域資源だけでなく、市民の暮らしに密接に関わる福祉や健康、教育、地域づくり活動に至るまでを地域の大切な資源と位置付け、これまで多様な地域、多様な人たちが営んできた“暮らし”の価値を高める。

また、様々な媒体を使ってブランドの魅力を戦略的に発信し、ターゲットが丹波篠山市の情報に触れる機会を増やすことで丹波篠山のまちのイメージを知ってもらい、関心をもつ人々を増やす。

【具体的な事業】

- ・丹波篠山ブランド戦略推進事業
- ・ブランドプロモーション活動事業 等

※なお、詳細は第3次丹波篠山市総合計画のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

7,800,000 千円（2025年度～2030年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度7～8月頃に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。検証後、本市公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2025年4月1日から2031年3月31日まで

6 計画期間

2025年4月1日から2031年3月31日まで